

宮代町観光ビジョン策定検討会議 中間報告書

宮代町の観光推進について

令和2年 3月10日  
宮代町観光ビジョン策定検討会議

本紙は、令和元年度に5回にわたり開催された「宮代町観光ビジョン策定検討会議」で議論された内容について要旨をまとめたものです。

【検討会議】

第1回	令和元年 7月24日 (水)	進修館集会室
第2回	令和元年 8月28日 (水)	役場202会議室
第3回	令和元年10月23日 (水)	進修館研修室
第4回	令和元年12月18日 (水)	役場202会議室
第5回	令和2年 2月19日 (水)	役場202会議室

## 1. 観光推進の背景 -なぜ今、観光推進か？地域課題解決の手段としての観光推進-

現在、多くの地方自治体が共通の“課題”に直面している。課題とは、つまり、少子高齢化や人口減少による商工業者の減少、農業後継者の不足、社会参加の希薄化、売り上げの減少、活気の喪失、地域経済や地域文化の担い手の不足とその先にあるコミュニティ機能の崩壊のおそれである。

2003年、小泉総理大臣が「観光立国」を宣言、以降、国は訪日外客誘致（インバウンド推進）を強力に推進してきた。人口減少による国内の市場規模の縮小や税収の減少を、訪日外国人の旅行消費で補おうとする意図によるものである。各自治体は、競って転入促進策を図ってきたが、国のインバウンド施策と連動し、移住者獲得の次の方策として「交流人口」の拡大による地域活性化を目指し、それぞれ体制の整備や取り組みを進めている。

宮代町においては、都心から小一時間にありながら、自然が残り、子育てや生活環境は良好であると考えられるが、2015年の人口33,000人から2045年には25,000人まで落ち込むとの試算もあり、地域コミュニティ機能や活力の維持に向けた抜本的な取り組みが急務となっている。町内の事業者は総じて小規模で高齢化しており、町特産の“巨峰”も後継者不足による生産者減で、現状のままでは近い将来、消滅の危機に瀕している。

宮代町はいわゆる“観光地”ではなく、宿泊施設ももたない。しかし、町の歴史のなかで計画され築き上げられてきた付加価値の高い施設が複数存在し、ことさらPRしているとは思われないのに、専門家や見学者、観光客が来訪する。都心から車や電車で約一時間という距離は、都心からの手頃な体験型日帰り旅行を可能にしている。例えば、「ホテル鑑賞会」には都心からの親子連れが多く参加し、イベントが紹介されると、直ちに参加希望者でいっぱいになるという。「トウゴフェスティバル」のような大型イベントには、近隣市町に加え都内や県内からの来訪者が大挙してやってくる。集客力のある「東武動物公園」と5,000人が学ぶ大学も立地する。田園風景や屋敷林を備える古民家、高さが整った町並み等、豊かな自然と地域文化も魅力的である。そして何より、“手弁当”でも自分達で地域を盛り上げようという地域住民の活発な活動が地域の魅力をさらに高めており、観光推進のための基礎的な条件が概ね揃っている。

町の「第4次総合計画」でも重点構想のひとつに「交流人口を増やす」ことが掲げられている。

## 2. 宮代町における観光の取り組みおよび現状と課題

### (1) 観光の取り組み、総合計画との関係

「第4次総合計画」構想2「交流人口を増やす」に則り、地域特性を活かし、自然環境や既存施設を活用した日帰り観光やグリーンツーリズム事業を官民協働で図ってきた。

## (2) 宮代町における観光の現状と課題

町内に「東武動物公園」が立地し、人口 33,000 人の町に、毎年約 120 万の観光客が訪れている。仮にその半数が鉄道利用者で「東武動物公園駅」で下車するとすれば、その数は年間 60 万人、単純計算すると、連日、約 1,650 人が西口ロータリーを通過し東武動物公園に向かっていることになる。バス利用者が含まれるにしても、毎日、相当数が、ほぼ皆同じ道を通って、東武動物公園に向かう。移動の途中で食事や買い物をしてもらうことができれば、町のまさに中心エリアが活気づき周辺の事業者も潤う、はずである。

「進修館」「笠原小学校」など建築の教科書といえるような公共建築物や、“農”施設「新しい村」、全国でも珍しい「木造庁舎」といった文化的価値の高い町の“顔”であり“核”と言える見どころが、鉄道駅と東武動物公園の間に隣接して立地している。実際、そのエリアでは、年間を通して大小さまざまな体験・交流イベントが開催されている。集客の点では成功と言える。お金はどのように落ち、回転しているだろうか。

一方で、多様な資源に恵まれているものの、一部を除いては、資源そのものも資源へのアクセスも全般に小規模である。大人数を一気に大型バスで誘致できるような物理的環境やコンテンツは難しい。

町民が中心となって良質な体験・交流イベントを数多く企画・運営していることは理想的であり、強みである。ただ、新しいメンバーの確保が難しく、比較的同じメンバーが複数に係わっており、事業ごとあるいは人と人の連携は弱い。また、収益や利益とも結びついていない。ボランティアの手弁当で支えられるイベントは社会参加や生きがい創出など観光の文化・社会的側面では大きな価値があるが、組織としての経験の蓄積には繋がりにくく、人が変われば毎回ゼロからのスタートとなり、安定した継続は難しい。

事業によっては役場の協力を得ることができる。しかし、役場にもマンパワーの限界がある。“まちづくり”としては、地域住民主体で進められることが望ましいが、長期的展望で地域課題に対応していくには推進の“かなめ”となる機能が必要である。

### 3. 宮代町の観光の現状分析

#### 【 S W O T 分析 】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町民の主体的活動が盛ん</li> <li>・ 年間通してイベントが多種</li> <li>・ 大学があり 5000 人の若者がいる</li> <li>・ 特徴のある学校がある</li> <li>・ 自然豊か</li> <li>・ 美しい景観（高層建物が無い、屋敷林）</li> <li>・ コンパクト（情報共有に強い、意思決定が早い）</li> <li>・ 主要観光資源へのアクセスが良い</li> <li>・ 都心から電車で小一時間、3 駅を有する</li> <li>・ 駅前魅力（東武動物公園駅西口、姫宮駅西口の街路樹）</li> <li>・ 特徴ある施設（進修館、笠原小学校、木造庁舎他）</li> <li>・ 集客力のある施設（東武動物公園）</li> <li>・ 個人経営飲食店が多い</li> <li>・ 行政と町民の距離が近い</li> </ul> <p style="text-align: right;">強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 網羅的・継続的な情報発信の不足</li> <li>・ 東武動物公園と宮代町が結びつかない</li> <li>・ 何でもあって地域ブランドが絞れない（宮代と言えば「これ！」が無い）</li> <li>・ イベントは多いが収入に結びつかない</li> <li>・ 施設間の補完関係の不足（東武動物公園と新しい村など）</li> <li>・ 駅から観光中心部にかけての動線が弱い（誘導、“宮代参道”）</li> <li>・ 農の規模が小さく大勢に対応できない</li> <li>・ 活動拠点と活動場所の調整・不足</li> <li>・ 利便性ゆえ都心通勤者が多い</li> <li>・ 商業施設が少ない</li> <li>・ 若者が町内を回遊しない</li> <li>・ 小規模事業者が多い</li> <li>・ 駐車スペースが不足</li> <li>・ 宿泊施設が無い</li> </ul> <p style="text-align: right;">弱み</p>
<p style="text-align: right;">機会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東武動物公園駅西口の整備</li> <li>・ 埼玉県物産観光協会との連携</li> <li>・ 町活性化（関係人口拡大）に向けた意識の高まり</li> </ul>	<p style="text-align: right;">脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恵まれた環境ゆえの危機意識の不足</li> <li>・ 地域コミュニティの弱体化（無関心・地域愛の不足）</li> <li>・ 農業後継者の不足</li> <li>・ 商工業者の減少</li> <li>・ イベントの担い手の不足</li> <li>・ イベント担い手のモチベーション維持</li> <li>・ 人口減少と高齢化</li> <li>・ 自治体間競争の激化</li> </ul>

### 4. 今後の議論に向けて ※ランダム

#### (1) 観光動線（“参道”の演出）

[東武動物公園駅] = [進修館][庁舎] = [笠原小学校] = [東武動物公園] = [新しい村]

“点”と“点”を結んで線にする。ひとつひとつでは弱くても、繋ぐことで魅力が増し集客力が高まる。

「進修館」や「笠原小学校」、「新しい村」、「木造庁舎」など、町のまちづくりの歴史のなかで整備されてきた町の財産であり“顔”である。

「進修館」「笠原小学校」は、本来、観光目的の施設では無いが、建築学的に貴重なことから実際に多くの見学者や観光客が訪れる。

「東武動物公園駅」から新しい村までのエリアが、観光振興の“核”になる。駅からの動線をうまく演出することで、エリアの賑わい創出にもつながる。駅構内の地域情報発信基地も必要。

## (2) 観光推進に外せないキーワード 「農」と「自然」

宮代町の一番の魅力として「自然」を挙げる町民が多い。

「新しい村」での農業体験やハーブの収穫体験、山崎山エリアでの自然体験プログラムなどが都心からの子どもたちや親子連れを集客しておりグリーンツーリズムの拠点となる。

町内各地に残る田園風景や「屋敷林」をもつ古民家、桜並木、手入れされた個人の邸宅の庭など、「農」と「自然」を切り口にした体験型観光の可能性も高い。

## (3) 「東武動物公園」来訪者の町内回遊の仕組みづくり

「東武動物公園」という集客力のあるテーマパークが立地することは、町の観光の可能性を大いに広げている。

園内には遊園地やプール、食事処も設置されており、来訪者は園内で行動が完結し、町を回遊する様子が見られない。「東武動物公園」と「新しい村」は両者とも町の観光を牽引する重要資源であり、との接続を強化し両者にとっての「win win 関係」を構築する必要がある。

## (4) 宮代ブランドの開発

「宮代と言えば、〇〇〇」の発掘

宮代町の一番の“売り”は何か？

そこにしか無いモノ、本モノ、他と差別化できる尖ったモノ、“勝負できるモノ”を磨いていく！

美しい自然やおいしいモノは日本各地、どこにもある。“オンリーワン”は何だろうか？

## (5) “食” ・ “名物料理”

“食”は観光要素として極めて重要。しかし、残念ながらこれという決め手に欠ける。ストーリーとともに発掘したい。ちなみに埼玉県も名物料理が無い。

## (6) 人材確保・人材育成、広く町民を巻き込んでいける仕組みづくり

「トウゴコフェスティバル」や「ホテル鑑賞会」などのように町外から多くの観光客が参

加するものから、地域住民内部向けまで、年間を通してイベントが多い。支える横のつながりを強化し、より多くの町民参加を図る。

#### (7) 自立した観光

(6) とも関係して、係わる人びとが疲弊すること無く活動できるような“稼げる”“自立した”仕組みをつくっていく。

行政に過度に依存しない、また、行政に依存されない協働体制。

#### (8) 情報発信の仕組みの整備

情報発信が弱い。

素敵な紙媒体が多い。来てもらって初めて、紙媒体が活きる。手に取ってもらえない紙上媒体は活きない。

インターネットを活用した情報発信が急務であり、継続的に更新し続けていく必要がある。

### 5. 宮代町の観光推進に向けて -必要なこと-

#### (1) 推進の主体および体制

宮代町の観光推進にあたっては、町の観光振興に向けた短中長期の計画を立てて、内外の人材や資源を結びつけ、効果的な情報発信が必要である。現在は、係わる人もイベントも、それぞれがばらばらに独立して動いている。町として観光を推進していくためには、戦略をもって動かしていくことのできる専門の組織が必要である。具体的な形については今後の議論によるが、「観光協会」などがイメージされる。

また、推進体制の整備に時間を要する場合には、地域間競争が大きくなっていることから、正式な組織が動き出すまでの“つなぎ”で、町の資源や魅力を網羅的・継続的に発信できるような機能、例えば“(観光)案内所”があると良い。

#### (2) “オール宮代”での取り組み

観光推進にあたってはプラスの側面に目が行きがちであるが、プラスの陰でマイナス点も発生する。長期的に観光振興に取り組んでいくためには、まず、地域がもつ課題と目指す方向についてのしっかりした共有が必要である。様々な考え方をもち人たちが同じ方向を向くことができ、大きな課題に対応していくことができる。観光に係わりがある人だけでなく、観光とは無縁と考えられる個人や事業者の声を拾い上げながら推進していくことが何より重要である。観光振興による成果は広く町民全ての果実である。